

学校番号	8	学校名	静岡県立沼津特別支援学校	校長名	青木 暁乃
------	---	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全	人権に配慮した指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 職員が、相手の人権を尊重した対応を日々心掛けている。 保護者が、児童生徒の人権が尊重されていると感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒への「さん」付けが定着してきており元気な挨拶ができています。保護者から児童生徒に寄り添ったかかわり方に一定の評価をいただきました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修やさん付けの励行で人権尊重の意識と実践を高めることができました。 同僚間のやり取りで配慮が足りない指摘があったためさらに徹底したい。
		<ul style="list-style-type: none"> 校内が整理整頓されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 限られた収納容量に合わせて物品を精選しながら、安全な学習環境を保つことができました。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 整理整頓は進んだが業務改善につながる収納場所の確保が課題である。
	命を守る、未然防止と緊急対応の、実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 感染状況を鑑み必要な対策のもと教育活動が実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域・校内の感染状況等の把握に努め、国・県の通知や必要な対策を保健給食課を中心に確認・検討して対応した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内における感染拡大は防ぐことができた。対策の徹底には職員の更なる意思統一が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> 職員と児童生徒は、発災、緊急時の対応を理解し、行動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練や緊急体制訓練を通し、どういった行動をとるべきかが確認でき、訓練実施後のマニュアル等の見直しを進めることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でできなかった体験的な防災訓練を重ねることができた。避難後の対応など様々な状況を想定した訓練も必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> 日々、安全な行動が自分からとれるような指導を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返しの取り組みによって、避難行動がわかり、教師の少ない声掛けで児童生徒が素早く行動できるようになってきている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活の中で、児童生徒が自ら安全な行動を考える、体験するなどの機会を設定していきたい。
	専門	多面的で深い児童生徒理解	<ul style="list-style-type: none"> 職員が、児童生徒が主体性を発揮できるように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が主体性を発揮できるような授業づくりを行うことで、自分から参加し、考えて動く姿が多く見られるようになった。 	B
<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が、「授業が楽しい」「できるようになったことが増えた」と実感している。 			<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で児童生徒の笑顔が増えたり賞賛を受け喜んだりする姿を多く見ることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が関心を持てる学習や、成功体験を積み自信と意欲を高める学習を工夫する実践を積みむことができた。
つながりのある支援と指導の充実		<ul style="list-style-type: none"> 他学年、他学部を意識した系統性のある授業を実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「12年間のつながり検討会」により、学習の系統性を考え各学部・学年で指導計画や単元の内容について話し合いを深めることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 前の学年からのつながりを考え、年間指導計画の進捗状況についての確認や検討が進んだ。引き続き、いつ何を学ぶかを整理し、系統性の見える化を進めたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 保護者が、その時期にその授業を行う意義の説明を受け、理解している 	<ul style="list-style-type: none"> 面談や学年だより、日々の連絡帳で授業内容や意義について伝えることができています。 参観懇談会や保護者学習会の来校時に説明をした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業の意義や児童生徒の表れを積極的に保護者と共有することができた。個別学習に関しても担当教員から直接説明する機会を設ける等したい。
		<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末を活用した授業を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での端末の活用方法について実践事例等の共有が進んだ。まだ頻度は多くないが、調べ学習など、ICTを用いた授業で一人一台端末の活用が増えている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業へのICT導入が広がり、児童生徒が一人一台端末を活用する機会が増えてきた。端末の保管場所を教室の近くにすると等使いやすい環境整備をさらに進めたい。

様式第3号

連携	児童生徒の自立と輝きに向けた地域や関係機関との協働の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会委員から具体的な支援を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の大人との交流、農作物の収穫体験、地域サークルのハンドベルコンサート、地域の文化資源訪問や祭りへの作業製品出店等を実施し、児童生徒が地域の方々と関わり体験を広げることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 協力を受けて新たに始められた連携授業や校外学習など、地域の方を巻き込んだ学習が実現できた。学校運営協議会の話し合いや恩恵について、職員や保護者が具体的に把握できる紹介を充実させたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ケース会議後、今後の方針と役割分担が明確になり実践されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態把握から目標、評価まで関係機関と連携して検討し見通しや方針を確認、共有することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じてケース会議を開催し、今後の対応や目標について円滑に共有することが当たり前に行えるようになってきた。今後も関係機関との綿密な連携をしていきたい。
	地域とのつながりの強化	<ul style="list-style-type: none"> 各交流の成果を、保護者や地域が理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流だよりや学年だより、学校だよりを通して交流の様子について伝えている。交流籍校交流については参加希望をとる時に説明している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各交流について機会を捉えて保護者への説明や紹介を行うことができた。地域に向けた紹介の機会を増やしていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 職員が、様々な場面で本校の教育について紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年だよりにQRコードを載せ学校HPの閲覧につながっている。また、図工美術作品や作業製品の展示、地域の祭り参加等を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年だよりやHPを利用した紹介は内容、頻度とも充実してきた。その他の方法・媒体等、効果的なPRについての研修機会を設定したい。
		<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活用した学習を行い、地域から評価いただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方との交流で「また来たい」との感想が地域の方々の中に広がり、新規の参加につながっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新たに本校と関わった方を増やし、理解を広げることができた。地域貢献という視点から交流を捉え実施したい。
	チーム	働きがいのある職場環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が、協働することにより良い成果を挙げたり課題が解決できたりしたと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学部会等で児童生徒の情報を共有し、課題に対し他学年から助言を受けたり外部専門家を活用したり対応することができた。分掌間の協力による取組も増えた。 	B
<ul style="list-style-type: none"> 職員が、効率的な会議や業務遂行を意識して行っている。 			<ul style="list-style-type: none"> 諸会議において、事前の資料配布や議題の精選、時間内に終える等の工夫を実践することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 会議を効率的に、論点を絞って行う意識が定着してきた。今後も継続しながら話の深まりや活性化等も図りたい。
<ul style="list-style-type: none"> 職員が事務室からの伝達に必ず目を通して伝えている。 			<ul style="list-style-type: none"> 掲示板が効率的に活用されている。個別に必要な連絡内容はメールを併用することで確実に伝えられている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 事務室からの伝達が確実に伝わるようになってきた。掲示板の見出しの工夫や気付いた職員による周囲への声掛け等により伝達を向上させたい。
<ul style="list-style-type: none"> 職員が可能な範囲での改善がなされたと感じている。 			<ul style="list-style-type: none"> 担当職員からの安全点検報告や修繕依頼に事務室の対応が迅速にできている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 設備面での環境の改善は随時対応することができた。業務面での改善の要望に応えることが課題である。